

JA全農えひめ情報

みらいへど

■特集

生産・販売・購買一体事業の取り組み②（果実・野菜花き編）

■JA直売所めぐり

小野青空市・堀江ふれあい市 ～JA松山市～

6

2012・June



▶豊年丸は長さ約1m、葦や板で作られる



▶太鼓の音を響かせて、海までの行列



▶波静かな海上をはるか彼方へと向かう豊年丸



虫送り

(今治市伯方町北浦地区)



「虫送り」は稲などにつく病害虫の防除と豊作を祈願する伝統行事です。減反や農薬の普及で行事を行うところも少なくなってきました。

今治市伯方島の主な農業は柑橘と花栽培。現在、米作りをしているのは北浦地区のみとなりました。地区では田植え後、また柑橘類の病害虫防除後の6月第3土曜日に江戸時代から続く「虫送り」が行われます。

当日の午後、「虫送り」の主役・手作りの舟「豊年丸」が安置された善福寺に住民らが集まります。舟には船頭人形、虫食い野菜や害虫を積載。住職の読経、住民ら約50人は車座で直径約5mの大数珠を回して祈ります。その後、地区の境界などにお札を立てます。参列者は「といぼな」と唱えつつ舟を先頭に地神さんらをまわりながら海岸まで約2km、1時間を歩きます。北浦港で災障消除を念じ、舟を流します。掛け声の「といぼな」は、一説にはトオビヨウ岬つみの向こうまで流れていくよう願う言葉ともいわれ、人々は遠ざかる舟を見送ります。

翌日曜日は農休み。ゆっくりとからだを休ませ、ご馳走をつくり五穀豊穡を祈り過ごします。穏やかな瀬戸内海に息づく豊かな島の風景です。

あぐり〜ど

June 2012

CONTENTS

全農グループの経営理念

私たち全農グループは、
生産者と消費者を安心して結ぶ
懸け橋になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

今月の表紙



なれない通学にドキドキだった新入生たちもだんだんとなじんできたようです。降っていた雨もやみ、気分はお天気のように晴れやか〜な学校帰り。列車を待ちわびる子どもたちはアジサイの葉にカタツムリを見つけたり、プラットホームの向こう側で田植えをしているおじさんたちにもごあいさつ。列車を降りればお母さんのうれしいお迎えが待っています。

- 表紙：梅雨の中休み
はら ふみ(イラストレーター)

※「あぐり〜ど」は、「愛媛農業 (Agriculture)」を「リード (Lead) する」という意味と「心をつなげる (Agreed)」という意味を込めています。

農の風景Vol.138

虫送り (今治市伯方町北浦地区)

2

〈特集〉

24年度生産・販売・購買一体事業の
取り組み② (果実・野菜花き編)

コアモデル事業を普及拡大し 産地基盤の強化を進めます

7

THE・ねっとわーく

11

統計BOX

12

ふるさと ESSAY VOL.206

夢をかたちに 〜女性の自立をめざして〜

山下 由美さん

14

TOPIC NEWS

15

なんでもBOX

17

私たちがTACです
がんばります！愛媛のTAC

18

JAふるさと自慢Vol.138「直売所めぐり」

小野青空市・堀江ふれあい市

〜JA松山市〜

20

READERS通信

NOW NOW COOKING〈今月の素材〉**新生姜**

JA全農えひめ

ホームページ

<http://www.eh.zennoh.or.jp>

- JA全農えひめ「えひめの食」企画
<http://www.eh.zennoh.or.jp/ehimenosyoku/>
※「えひめの食」では、旬の農産物情報を発信しています。

- ◆(株)えひめ飲料
<http://www.ehime-inryo.co.jp>
- ◆JAえひめ物流(株)
<http://www.jat-ehime.co.jp/>
- ◆JAえひめフレッシュフーズ(株)
<http://www.eh.zennoh.or.jp/ja-fresh/>
- ◆(株)ひめライス
<http://www.himerice.jp/>
- ◆JAえひめエネルギー(株)
<http://www.ja-ehimeene.co.jp>

コアモデル事業を普及拡大し 産地基盤の強化を進めます

J A全農えひめは県内J Aとともに、第3期「生産・販売・購買一体事業」を推進しています。第3期事業では、生産振興をメインテーマに、米麦・果実・野菜花卉の作物別に「コアモデル事業」を設定し、作物振興の推進と農業生産基盤の強化・拡充に取り組んでいます。5月号から2回シリーズで「コアモデル事業」の23年度総括と24年度の取り組みを紹介しています。今回は、5月号の米麦事業に続き、果実事業と野菜花き事業の取り組みを中心にとりあげます。

〈果実コアモデル事業の取り組み〉

販売を見据え高品質安定生産対策や 新品種・技術の普及めざす

果実事業では、①周年供給体制の確立、②高品質安定生産対策、③新品種の着実な産地化に取り組むことで、規格販売など有利販売につなげ農家所得の確保・向上をめざし、「生産・販売・購買一体事業」を進めています。

23年度コアモデル事業では、22年度の取り組みを踏まえて、高品質安定生産のモデル実証として、①摘果剤の省力化・隔年結果防止効果の試験、②マルチドリップ方式(点滴灌水及びマルチ被覆)による品質向上実証、③レモン貯蔵性試験と試験販

売実証、④新品種「エクリーク65」(『ひめルビー』)の栽培指針作成に向けた栽培実証と普及に向けたPR、⑤新資材のビール酵母資材での樹勢改善による増収及び品質向上試験、⑥柿の新方式による脱渋試験、⑦鳥獣害対策として防護・畝資材の導入・活用法の検討を進めてきました。

こうした中、摘果剤の効果、マルチドリップ方式による品質向上、レモン貯蔵性の試験など一定の効果

果実コアモデル事業概念図

あるべき姿〈農業経営の確立〉 ・品目毎の周年生産体制による労働環境及び所得の安定 ・基本管理の徹底による連年の高品質安定生産及び所得向上	めざすべき姿〈3年後の産地形成〉 ・品種集約とリレー販売による季節を独占できる果樹産地の構築 ・適地適作による産地集約及び優良品種導入による生産団地確立
共通施策	
【販売対策】 ・愛媛産の品種リレーによる売り場の確保 ・メディアを活用した販売戦略 ・輸出対策 ・業務用加工品需要への対応 ・産地消費地交流の強化	【生産対策】 ・産地に応じた栽培技術の確立 ・高品質安定生産の実証普及 ・優良系統品種の販売対策 ・改植、高接ぎによる園地若返り ・新規産地開発
【コアモデル実証】 ・販売期間延長のための技術開発 ・灌水施設による品質向上対策 ・新資材の導入実証 ・キウイフルーツ等の新規増反	
【資材対策】 ・大口予約の強化 ・土壌診断等土づくり対策 ・新規資材の提案 ・低コスト資材の供給 ・企画販売等に対応した包装容器対策	
実現方策 ～高品質安定生産のためのモデル事業～ 平成23年度総括と平成24年度対策	
実現方策 ～産地開発・拡大～ 平成24年度対策	
【平成23年の取り組み】 ○高品質安定生産のモデル実証 ・マルチ点滴灌水試験：糖度向上、減酸実証 ・摘果剤試験：農家アンケートで評価を得た ・レモン貯蔵試験：貯蔵性の有効性を確認 ・エクリーク65：栽培指針を作成、販売検証 ・新資材ビール酵母による発根促進試験 温州みかん、不知火、野菜で効果実証 ・柿の脱渋試験：炭酸ガスの有効性を確認 ・鳥獣害対策：講習会開催、防護・罨資材の活用法検討	【平成24年の取り組み】 ○高品質安定生産の実証・普及 ・マルチ点滴灌水：実用化に向け普及検討 ・摘果剤：新剤実用化試験に移管・継続 ・レモン貯蔵試験：下期データ確認し普及検討 ・エクリーク65：経営収支を見極め、普及判断 ・新資材ビール酵母による発根促進試験 篤農技術として試験継続 ・柿の脱渋試験：実用化に向け試験継続 ・鳥獣害対策：講習会を継続
【平成24年度対策】 ○優良系統新品種（紅まどんな等）対策 ・紅まどんな等の高品質生産モデル ・企画販売等の実施 ○キウイフルーツの新規・増反 ・新規増反に対する初期導入経費への助成支援 ○新技術新品種実証対策 ・地域課題に対する実証支援	

得られており、今後は予備調査と実証試験により、地域に応じて現地実用化と普及拡大を図っていきたくと考えています。

貯蔵技術や「エクリーク65」については正品率の向上、安定した単価と経営収支の確立等が今後の課題となつていきます。

いずれにしても、特に果樹は単年度で効果の確認等が難しい品目です。したがって、24年度は、一定の効果のあった項目については、規模・普及拡大を図っていきますが、データの蓄積、実施時期や使用方法なども含め効果確認等の検証を継続実施する中で、モデル実証の方向性を見極めていきたいと考えています。

①摘果剤の省力化・隔年結果防止効果の試験

JAえひめ南管内で、早生温州から普通温州にかけて、摘果剤（フィガロン、タム）の省力化及び隔年結果防止効果の試験を実施し、摘果剤の農家アンケート（125件）を実施しました。

早生温州については、樹勢がやや強くなるタムによって肥大が対照剤に比べて113%と向上。フィガロンは少し樹勢を抑えることで、着色向上・色づきの面で効果が確認され

得るなど、一定の評価を得ることができました。

23年度は、気象要因による生理落果もかなり影響したと考えられることから、24年度も現地での実証試験を継続実施しながら、現地での普及拡大を図っていくことにしています。

②マルチドリップ方式（点滴灌水及びマルチ被覆）による品質向上実証

JAにしよう管内で、主力の宮川早生で22年度から2年間実施しています。23年度は23aで実施し、着色歩合9分以上の割合は34%と、対照の2%に比べて30%以上向上し着色面の効果が確認されました。また、秀品率は4.2%と対照の1.8%に比べて高い結果となっています。

糖度向上と減酸効果についての有利性が実証されたほか、果皮のきめも細くなるなど、品質向上に一定の効果が確認されました。

③レモン貯蔵性試験と試験販売実証

12月～年明けにかけて出荷集中で相場が低迷することから、単価確保をめざして、JAおちいまばりにおいて、貯蔵性試験と試験販売を実施しました。貯蔵性及び貯蔵した商品は従来品と遜色なく販売されるな

ど、貯蔵の有効性を確認しています。

④新品種「エクリーク65」(『ひめルビー』の実証)

普及をめざして栽培指針の作成、セミナー発表(果樹研究センター)を実施したほか、ネーミング募集(398点)により愛称を『ひめルビー』に決定(商標登録申請)したほか、試食アンケート(230件)、苗木生産(約500本)や生果試験販売などでのPR活動を行いました。また、搾汁試験(約1トン)も実施しました。

24年度は、限定した産地化に向けて、生産及び流通面・関係先へのPRを図っていきます。

⑤ビール酵母資材での樹勢改善による増収及び品質向上試験

23年度から新たに、新資材のビール酵母資材による発根(細根)促進試験を県内の各産地で実施し、温州みかん、不知火、ピーマン、小松菜等で実施し、品質向上や収量増加など効果の確認検証を行いました。単年度の実施ということで、24年度も継続し、効果の検証を進めていきます。

⑥柿の脱渋試験

慣行の脱渋方式と違って、アルコールと炭酸ガスによりいかに効率

的に脱渋できるかを検証し、一定の省力効果を確認しました。

⑦鳥獣害対策

営農指導員を中心に地域別に講習

〈野菜花きコアモデル事業の取り組み〉

企画販売と連動し産地基盤強化に取り組む

野菜・花き関係では、基幹品目であるきゅうり・トマト・なすの果菜品目、玉ねぎなどの露地品目について、新規及び増反による面積拡大・産地基盤の強化をめざし、「コアモデル事業」を進めています。

23年度は、企画販売の充実とTAC事業推進要領の活用を通じて、基幹品目で5・65ha、露地品目では11・25haの新規増反につなげました。

また、果菜品目の実証事業は、天候不順対策、病害対策・省力化や新品种の栽培について実証を実施していますが、24年度も継続して品目ごとの課題解決に向けた取り組みを進めていきます。

①基幹品目の拡大

23年度は、きゅうり・トマト・なすで増反目標5haに対して、販売先の固定や値決め方式など企画販売の

会を開催し、防護・資材等の導入活用法等を検討しました。24年度も引き続き普及に向けた取り組みを継続していきます。

取り組みと連動し、新規増反面積は、きゅうり4・49ha、トマト0・5ha、なす0・54ha、合計5・65haの新規・増反実績となりました。

高齢化等による面積減少もあり、新規・増反が全体の面積純増につながっていない品目もありますが、産地の維持・拡大につなげるためにも、企画販売や直販の拡充を図りつつ、継続的に新規増反対策を推進していくことが重要です。

また、23年度は、天候不順の影響で出荷時期・数量確保の面などで企画販売との連動が難しい状況でしたが、産地基盤を維持・拡大するためには農家所得の確保と価格の安定が不可欠であり、24年度も販売強化に継続して取り組めます。

②露地品目の拡大

23年度は、玉ねぎで全農青果センターとの契約販売を実施し、法人及

野菜花卉コアモデル事業概念図

<p style="text-align: center;">あるべき姿〈農業経営の確立〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 大規模経営体やJA部会を通じた持続的経営体の確保 安定経営可能な生産販売体制の構築 	<p style="text-align: center;">めざすべき姿〈3年後の産地形成〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 規模拡大経営体の育成を核にした契約販売量の拡大 玉ねぎ、里芋を軸とした契約取引の拡大 	<p style="text-align: center;">あるべき姿〈全農の支援体制〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 愛媛チームとしてメリットある経営支援体制の構築 生産者の収益向上を目指した継続的生産対策の実施 販売力強化とコスト低減による生産者手取りの最大化 			
実現方策《契約等露地品目拡大対策》		実現方策《基幹品目基盤強化対策》			
<p>【販売対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 契約販売対策の実施(玉ねぎ・里芋等) 加工品開発の検討 	<p>【生産対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 面積拡大、反当収量増加、労力低減等に対するアプローチ たばこ廃作、作物転換対策の実施 	<p>【資材対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 販売資材及び生産資材のコスト低減対策：大口予約対策、土壌診断、低コスト総合資材提案等 	<p>【販売対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 企画販売、直販の拡大 取引先ニーズに即した物流体制の整備 	<p>【生産対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 重点品目に絞った対策の実施 新技術実証、各種研修会の充実による品質収量の向上 	<p>【資材対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 販売資材及び生産資材のコスト低減対策：予約対策、土壌診断、低コスト総合資材提案等
平成23年度総括と平成24年度対策		平成23年度総括と平成24年度対策			
<p>【平成23年度の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> 契約等露地品目の拡大 目標11haに対し実績11.5ha。玉ねぎで集落営農法人が機械体系を導入。 里芋伊予美人で3ha拡大。東予広域で産地化が進展。 課題：玉ねぎは収穫出荷での省力が必要。里芋広域産地化では共選の整備が課題。加工業務用では一般販売との価格差があり、省力化、面積拡大による所得確保の意識づけが重要。 	<p>【平成24年度対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 契約等露地品目の拡大 品目：玉ねぎ、里芋等 目標：新規20ha 対策：新規に対する初期導入経費助成と省力機械化体系の普及。 タバコ廃作・作物転換対策 キャベツ、南瓜、里芋、きゅうり等 対策：新規・増反への初期導入経費助成。企画販売・直販対策、土壌診断支援や低コスト資材供給。 	<p>【平成23年度の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> 果菜等基幹品目の新規・増反 目標5haに対し実績5.7ha。企画販売と連動しきゅうり、トマト等を拡大。 課題：高齢化の中、面積減少に対し産地維持のためにも新規増反が重要。企画販売との連動にはロット確保と重点品目への絞込みが必要。 新技術新品種実証 天候不順対策、病害対策などを実施。 地域の課題に対応した実証継続が必要。 	<p>【平成24年度対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基幹品目：きゅうり、トマト、なす 目標：5.5ha 対策：新規増反に対する初期導入経費助成、企画販売・直販対策の実施。 新技術新品種実証対策 目標：天候不順、難防除・反収向上等に対応した新技術新品種実証。 対策：地域課題に対する実証助成。 JAマーケティング調査支援 県外量販店等での調査支援と助成。 		

【参考：平成23年度取り組み状況】

(表1) 露地品目拡大

品目	作型	実施JA	H22面積(ha)	H23面積(ha)	新規増反目標	新規増反面積(ha)	企画販売概要
玉ねぎ	冬春	3JA	32.8	29.4	11ha	3.88	加工業務及び契約販売への取組実施(H24年産として販売計画)
キャベツ	冬春	1JA	1.8	2.5		1.01	県内量販店に向けた契約的販売の実施
ブロッコリー	冬春	1JA	14.8	15.2		3.89	県外量販店に向けた企画販売の実施
一寸蚕豆	冬春	1JA	20.1	23.8		1.79	関東量販店及び業務筋に対する値決め販売の実施(H24年産として販売計画)
ほうれん草	冬春	1JA	0.2	0.8		0.68	県内量販店へ向けての企画販売実施
小計			69.7	71.7		11.25	

(表2) 基幹品目拡大

品目	作型	実施JA	H22面積(ha)	H23面積(ha)	新規増反目標	新規増反面積(ha)	企画販売概要
きゅうり	夏秋	4JA	70.8	75.6	5ha	4.49	関西市場を通じた量販店への長期安定した県産きゅうりの売り場確保
トマト	夏秋	2JA	24.4	23.8		0.50	生協等に向けた企画販売の実施、及び量販店向け買付販売の実施
なす	夏秋	2JA	3.6	3.9		0.54	関西地区生協に対する価格固定値決め販売の実施
トマト	冬春	1JA	1.4	1.5		0.12	県内量販店に向けた企画販売実施
小計			100.2	104.8		5.65	

※H22面積及びH23面積：平成23年産出荷会議各JA提出数値より（実施JA分合算）
 ※玉ねぎ及び一寸蚕豆のH22面積は平成23年産面積、H23面積は平成24年産計画面積

び個別生産者の新規生産（出荷量52t）につながりました。法人は新規実証を踏まえ機械化体系を導入したほか、島嶼部では耕作放棄地対策の環境として取り組みました。

また、里芋では、JAブランドの「伊予美人」を核に広域産地化に向けた取り組みとして、JA間連携による栽培技術研修及び販売対策（試

験的共選）を実施し、東予地区を中心に3haの新規増反となりました。加工業務用玉葱産地拡大にあたっては、販売先の固定と値決め販売などを通じた安定収入確保の取り組みとともに、収穫から出荷までの作業省力化、収穫時期の米麦との作業の調整が課題となっています。また、加工業務用と生果との販売

価格差があるため、業務用契約栽培では「省力化し面積拡大することで所得確保していく」ことを生産者に理解し取り組んでいただくことが重要となっています。

24年度は、玉ねぎ・里芋を中心として、TAC事業推進要領を通じて、新規で20haを目標に取り組むこととしています。

玉ねぎについては、重点JAを設定する中で、加工業務用新規産地の拡大を進め、中生の新品種実証など生産から販売までの省力化と安定収入確保に取り組みます。また、冷蔵玉ねぎなど既存産地の維持拡大に向け、新規増反を推進します。

里芋については、選果機・移植機などの導入推進を通じて、拡大に取り組みます。

一方、タバコ廃作・作物転換対策として、企画販売や直販の取り組み、土壌診断支援や低コスト資材供給等を通じて、キャベツ・南瓜・里芋・きゅうり等地域に適した作物の推進に取り組みます。

TACを核として コアモデル事業を推進し生産拡大を!

TACとは、「出向く営農」に取り組む営農指導員の愛称です。

23年度は、5JA(うま、西条、周桑、越智今治、東宇和)・51名がTACシステムを活用した出向く活動に取り組んでおり、JAのTACは、1人当たり登録担い手数100件、月訪問件数51件の実績で、担い手訪問活動が定着してきています。

また、JA役員・部課長・TACによる週・月ミーティングが定例化し、担い手情報を共有するとともに生産・販売・購買一体事業での生産拡大や資材予約で、着実に実績を積み上げつつあります。さらに、24年度は新規参加予定を含め、県内8JAでTACの活動が進むことになっています。

こうした中で、JAはコアモデル事業の推進による実績上げ、県域ではJAとの一体化によるコアモデル推進支援の強化が課題となっており、特に情報の共有化による課題解決型事業提案が重要となっています。

JA全農えひめでは、「生産・販売・購買一体事業」のコアモデル事業の推進にあたって、24年度からTACを核とした普及拡大事業展開と産地基盤の維持拡大に取り組むこととしました。TACによる担い手や部会・共選や集落営農とのコミュニケーションを通じて、コアモデル事業に参加する担い手の掘り起こしのほか、販売と連動した新規・増反運動の展開並びに資材予約推進、新技術等実証事業などに取り組みます。

このため、産地振興のための事業要領についても24年度は「TACコアモデル事業要領」として集約し、JAの営農振興計画と連動して、米麦・果樹・野菜花きでの生産拡大支援やタバコ廃作・作物転換対策、JAマーケティング調査など販売と連動して取り組むTACやJAの営農振興を支援することとしています。引き続き、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

THE

ねつとわーく

「JA代表者と系統経済事業の意見交換会を開催」

企画課

J A全農えひめは、県内J A代表者の声を事業運営に反映させようと、5月2日、J A愛媛で、「系統経済事業意見交換会」を開催しました。



J A全農えひめは、委員会会長、代表理事組合長・理事長のほか、J A全農本所から鈴木盛夫常務、J A全農えひめから部長以上の幹部職員とグループ会社の代表者が出席。J A全農えひめグループの事業概況・方針と重点施策について報告・説明後、J A出席者一人ひとりに出された要望・意見を基に、意見交換を行いました。

◆JA代表者からの主な意見

【営農販売事業関係】

①生産・販売・購買一体事業について努力しているのはわかるが、生産振興を図るためにも販売力の強化をお願いしたい。

②柑橘は、販売の仕組みや生産量の確保等について1J Aでは対応がしにくい面もあり、県内J A全体で考える時期にきている。J A全農えひめとして買取販売等も含め思い切った取り組みが必要。

③全農青果センター(株)など市場にな

い全農の機能を活かし、契約販売や直販で積極的な事業展開をお願いしたい。

④J A全農えひめの米の新たな集荷対策に期待している。

⑤20〜30年後の産地のあり方・将来像について、全農も具体的に提案してほしい。

⑥J Tなどはパテントを取得して事業拡大を図っている。J Aだけで活用・販売できる品種・技術等の開発を進めるため、J Aグループでファンドを作ってはどうか。

【畜産事業関係】

①畜産事業について、具体策と現場指導をお願いしたい。

②県が新ブランド牛を立ち上げているが、全農としてどう取り組むのか。

【生活購買事業関係】

①高齢化と人口減少が進行する中で、地域(購買弱者)の期待に応える生活購買事業のあり方を提案してほしい。

②SSや購買店舗の指導をお願いしたい。

◆JA全農えひめの回答

【営農販売事業関係】

①今年度は直販課を新設するなど販売強化に力を入れており、J A全

農青果センター(株)など全農機能を發揮して多様な販売方法に取り組みことにしている。

②柑橘販売については、一部品目でJ A担当者も含めプロジェクトを設置し、J A販売、県域でまとめ販売することも含めて方向性を出し、一定の成果をあげたい。

【畜産事業関係】

①養豚経営者協議会やJ Aえひめアイパックス(株)と連携し、具体的にテーマを決めて取り組んでおり、農家へのフィードバックも行いながら農家個々の生産性向上に取り組んでいる。

銘柄牛の確立に向けて、野村臨時家畜市場を開設し九州市場に追いつくまで市場性を高めている。また、販売面でも、神戸市場に出荷する4等級以上の牛についてブランド化を進めている。

②県の新ブランド牛については、県との協議の中で6月までに方向性を明確に示すよう求めており、連携を図りながら取り組みたい。

【生活購買事業関係】

①利便性等地域の期待に応えられるようYショップや移動購買店舗の活用などの対応について提案・説明していきたい。

THE ねととわーく

「愛媛産かんきつをPRしていただく」 2012愛媛みかん大使を募集

青果販売課

JA全農えひめは、「果樹王国えひめ」のみかん・伊予柑キャンペーンをはじめ愛媛産果実の消費宣伝活動に協力していただく『2012愛媛みかん大使』4



▶2011愛媛みかん大使の皆さん

人を募集します。みかん大使による消費宣伝活動は昭和34年度から実施しており、今回が54回目となります。

◆応募資格

- ① 愛媛県内在住の18歳以上（高校生は除く）の元気で明るく好感の持てる方。
- ② モデルなど特定の会社や団体等と専属契約していない方で、他のコンテストに選出されていない方。
- ③ 愛媛県産果実の消費宣伝キャンペーン等の活動に必ず参加でき、明朗・快活で表現力豊かな方。
- ④ 勤務先・学校等の理解と協力が得られ、愛媛みかん大使として年間活動できる方。

◆応募方法

- ① 所定の応募用紙または既存の履歴書等に必要事項を記入のうえ、サービス程度の上半身の写真を添えて、応募先まで郵送ください。

- ② 応募用紙は、県内JA・JA全農えひめ・リジエール松山・各テレビ局・愛媛新聞社・各大学・専門学校の受付等に置いてあります。また、JA全農えひめホームページからも印刷できます。

◆募集期間

- ① 平成24年6月11日（月）～7月19日（木）（当日消印有効）

◆審査方法

- ① 事前審査（書類審査）
7月26日（木）
※事前審査の結果は、直接ご本人に連絡します。
- ② 最終審査（面接審査）
8月6日、リジエール松山で面接審査を行い、4人を選考。
JA全農えひめ、愛媛県果樹研究同志会長、女性果樹同志会長、マスコミ関係者らが審査します。
※最終審査の結果は、8月中旬に直接ご本人に連絡します。

◆任命式（8月23日）

関係者による任命式を行い、マスコミに発表します。

◆副賞ならびにプレゼント

- ① 愛媛みかん大使（4人）委嘱料20万円を進呈します。
- ② 最終審査出席者全員

書類審査に合格し最終審査に出席いただいた方には、交通費とボランティアを進呈します。

◆『愛媛みかん大使』の活動

① 任期

平成24年9月～25年8月末

② 活動内容

全国各地での表敬訪問、テレビ・各種イベント出演、試食宣伝キャンペーン等への参加（日当・交通費・制服一式を支給）。

③ キャンペーンスケジュール

- 11月（みかん）
東京・大阪
- 1～2月（伊予柑）
東京・大阪・北海道他
- 4月
「オレンジデー」関連イベント

応募先・問い合わせ

〒790-8555
松山市南堀端町2番地3
JA全農えひめ青果販売課
愛媛みかん大使募集係
Tel089-948-5762
【ホームページアドレス】
<http://www.eh.zennoh.or.jp>
(6月11日公開予定)

平成24年産 夏秋野菜出荷計画表

(単位：ha、トン、%)

品 目	出荷計画		前年比 (%)	
	面積	共販量	面積	共販量
きゅうり	92.6	5,725	109	124
トマト	33.9	2,716	98	102
ミニトマト	8.4	329	98	123
インゲン	17.0	102	110	127
メロン	7.7	9	100	32
生椎茸		446		77
ピーマン	21.8	1,148	104	114
一寸蚕豆	39.8	426	82	87
伊予なす	16.0	1,170	101	104
松山長なす	4.9	253	109	113
絹かわなす	3.8	281	112	128
枝豆	16.4	108	112	121
アスパラガス	23.3	295	98	97
合計	285.6	13,007	101	111



「夏秋野菜出荷協議会を開催
共販量は前年比111%を計画

青果販売課

J A全農えひめ青果販売課は、4月24日、松山市のJ A愛媛別館で「平成24年産夏秋野菜出荷協議会」を開き、主力13品目の販売基本方針を決めました。

栽培面積は、高齢化等の影響はあるものの、タバコ廃作に伴う野菜への転換が進んだことやJ A全農えひめの「T A Cコアモデル事業要領」(新規・増反)を活用した新規増反

推進等により、きゅうり・なす・いんげん・枝豆など8品目が前年を上回り、全体では前年比101%の286ha。春先にかけての低温・日照不足などにより生育遅れはみられるものの、共販量は、きゅうりの5,725t(前年比124%)を筆頭に、全体では前年比111%の1万3,007tを計画しています(表参照)。

「T A Cコアモデル事業要領」を活用し、販売と連動した生産振興・新技術新品種等の導入など産地化・事業化を進め、農業生産基盤の強化・拡充を図ります。

《基本方針》

① 生産・販売・購買一体事業の取り組みの強化

「T A Cコアモデル事業要領」を活用し、販売と連動した生産振興・新技術新品種等の導入など産地化・事業化を進め、農業生産基盤の強化・拡充を図ります。

② 価値の創造に向けた多面的販売への取り組み強化

放射性物質の新基準の設定や風評被害の影響など青果物の販売環境が依然として不透明な中で、市場流通を基本に卸売会社のパートナー化を図ります。また、業務・加工向け取引など販売ルートの確立、下位等級の有利販売先の確保、各産地の特色を活かした提案型推進の強化などを通じて、企画販売・契約的販売の拡大と販売店・消費者に支持される産地づくりに取り組みます。

③ 販売促進活動の強化

対面販売型販促活動や消費者交流会の実施

により、愛媛ファンの拡大と産地・消費地ともに風評被害に影響されないう「顔の見える」体制づくりを図ります。また、メディア等を通じた消費者向けの情報発信を充実します。

④ 安全・安心への取り組み

生産・出荷動向など消費地に向けた産地情報の発信強化により、信頼される産地をめざします。また、農業適正使用・履歴記帳、出荷・販売資材における適正表示の徹底に努めます。

《市場からの要望》

① 栽培面積の維持・拡大による出荷量の確保(ロットの拡大)。

② 長期安定出荷(施設化・気象災害に強い産地づくり)。

③ 適期収穫と品質・食味の安定化対策(個人間・J A間格差の是正、棚もちの向上)。

④ 高温時の鮮度保持(予冷の徹底)。

⑤ 精度の高い産地・出荷情報の発信。

⑥ 選果選別の徹底

⑦ 出荷状況に応じた効果的な販促の実施。

⑧ 規格・出荷資材の統一。

「JAオリジナル住宅エコチョイス プレゼントキャンペーン実施中！」

設 課 施 農 住

『JAホーム』では、社会的に地球温暖化防止対策が進む中で、地球環境にやさしい取り組みとして、「はじめませんか？省エネ住宅でエコライフ。」をキャッチコピーに、平成24年12月30日まで、「JAオリジナル住宅エコチョイスプレゼントキャンペーン」を実施しています。

キャンペーン期間中に、企画型オリジナル住宅「Age（エイジ）」または「イーズマインド」をご成約いただいた方に、①エアコン（6畳相当）、②ヒートポンプ給湯器「エコキュート460ℓ」、③遮熱ガラスグレードアップ、④LEDシーリングライト2台、⑤節水型トイレ、以上5点の中からご希望の2点をプレゼントします。

なお、「IHクッキングヒーター付システムキッチン」を標準装備（シンブラタイプはガスコンロ）しており、オプション工事として、太陽光

発電システムも装備することができます。エコポイント仕様、長期優良住宅バージョンもあります。

期間中、県内JA・JA全農えひめでは、キャンペーンチラシや広報誌等を通じてPRに努めていきます。

【契約条件】

- ① 施工坪30坪以上。
- ② 県内で建築することのできる物件、もしくは土地を取得予定の方。
- ③ キャンペーン期間中の契約で、原則として平成25年3月末までに着工できる物件。
- ④ JA全農えひめの住宅取扱要領に合致していること。

リフォーム推進活動も展開中

『JAホーム』では、同時に、「リフォーム推進活動」も展開しています。

住まいの中で傷みややすいバス・キッチン・トイレについて、限定価格商品を提案する他、外壁や屋根の塗装をはじめ、住まいのお悩みを解決しながら、ご希望に沿った最適なプ

ランを提案し、お手ごろ価格で快適な暮らしを応援します。

なお、新築・リフォームの際に一定の省エネ工事を行ったリ、リフォームの際に耐震化のための耐震改修工事等を行う場合には、エコポイントを利用することができます。

「住宅エコポイント」は、平成24年10月31日までに着工・着手した新築・リフォーム工事が対象で、取得したポイントの半分以上を被災地支援に充てることが条件となっています。詳しくは、「住宅エコポイント事務局」ホームページをご覧ください。

はじめませんか？省エネ住宅でエコライフ。

JAオリジナル住宅

エコチョイスプレゼントキャンペーン

2012年4月1日～12月30日

※2013年3月31日までに着工可能な方に限ります。

期間中、ご成約の方に、この5つの中から、ご希望の2つをプレゼント！

1 エアコン
〈6畳相当〉



TOSHIBA/RAS-221PDX
2010年度省エネ基準クリア

2 エコキュート
460ℓ



光熱費がお得！
地球環境にもやさしい給湯システム。

3 遮熱ガラス
グレードアップ



冷暖房効率アップで
エコロジー＆経済的！

4 LEDシーリング
ライト〈2台〉



省エネで明るいLED照明。
消費電力を大幅カット。

TOSHIBA-E-CORE

5 節水型
トイレ



ウォッシュレット
一体型便器
TOTO
ネオレスト
Dタイプ

JA/JA全農 JA全農えひめ 生産資材部 施設農住課 TEL (089) 948-5473 ※詳細はJAホーム窓口までお問い合わせください。

新築・増改築など住まいに関する相談・お問い合わせは、最寄りのJA住宅担当窓口、またはJA全農えひめ施設農住課（☎089（948）5473）まで、お気軽にお問い合わせください。

統計BOX

耕地や施設が使用できない

— 東日本大震災による農業経営体の被災・経営再開状況(平成24年3月11日現在)より —

東

日本大震災から、早くも1年が過ぎました。被災地における状況を見ると、思うように復興が進まず、今も深い爪痕を残している事が分かります。今回は、被災地での農業経営体の経営再開状況を見ていきたいと思います。

農業経営体の 営農再開状況

震災で被害のあった農業経営体は、岩手県で21・8%、宮城県で15・3%、福島県で33・8%、青森県、茨城県、栃木県、千葉県、新潟県、長野県を含めた9県では、全体の15・6%が被災し、津波による農地の塩害、がれきの流入、農業用施設の損壊、農地の液状化等の被害を受けました。

被害のあった農業経営体のうち、震災後営農を再開した経営体は、岩手県で94・8%、宮城県で54・2%、福島県で56・0%となっています。

このなかで、営農を再開できない理由(複数回答)として、岩手県、宮城県で「耕地や施設が使用(耕作)できない」が9割以上、「農機具が確保できない」、「生活拠点が定まら

ない」、「営農資金に不安がある」が3割〜5割となっています。福島県では「原発事故の影響」が9割以上となっています(図)。

経営の継続・再開の支援

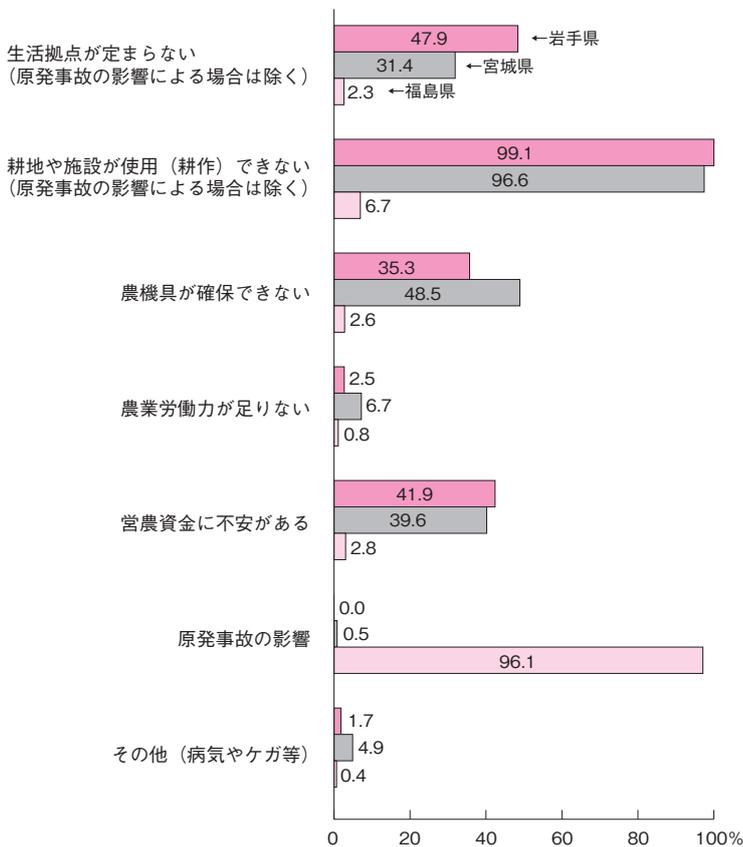
震災の早期復旧を図るため、農林水産省では、農地・農業用施設等の復旧、生産手段・流通機能の回復、経営の継続・再建支援(被災農家が

共同で行うゴミやがれきの除去等の

復旧作業に対し支援金の交付や、被災農家のすみやかな復旧に要する資金が円滑に融通されるよう金融支援措置が講じられました。)、農畜産物等の安全確認(放射性物質の降下が見られた地域における農用地の土壌等の調査、検査体制の強化等)を行っています。

中国四国農政局
松山地域センター 農政推進グループ

図 被災した農業経営体が営農を行っていない理由(複数回答)





夢をかたちに

女性の自立をめざして

平成21年4月、米粉の普及による自給率の向上を目指し取り組みを始めたJAえひめ南による新規事業「手作りパン工房みなみ」。JA女性部員たちが作る米粉パンは従来の米粉パンの、堅い、ぱさつくなどのマイナスのイメージを払拭し、ふっくらもちもちとした食感、地域の皆さんに受け入れられ愛されるパン工房へと成長しました。マネジメントに関わり目標、目的を明確にし達成するため、無我夢中で取り組み、駆け抜けた3年間で、この3月、突然訪れた分岐点。葛藤を繰り返した結論は退職。そこで私が決断した道を快く受け入れ、背中を押して下さったJAえひめ南の組合長に感謝しながら、新しい目標に向かって又歩みを始めました。「食」と「農」を基軸とした私の生き方にこれからも変わりはありません。

愛南町山出地区。見渡す限り山と田、畑という環境で育った私。後世に残したいと今注目されている美しい棚田は、幼い頃生活の一部でした。結婚をするなら両親のそろった農家に嫁ぎたいと思っていた私が、夫と出会い非農家から農家へ嫁いだのは今から25年前。結婚当初、我が家は柑橘1.3ha。水稲80a、野菜20aを営む兼業農家。農作業の中心は両親でしたが、農薬散布をしたその日は大好きなお酒に手を付けられない義父の姿を見て、慣行農法に違和感を持っていたのは夫も同じでした。マスクやカッパを身につけず、やればやるほど元気になるそんな農業を目指したいと始めたのは米作りでした。

今でこそ生産履歴記帳やエコえひめ認証作物の推奨など、県やJAでも指導されるようになってきましたが、当時私たちの米作りはみんなの中傷的でした。両親の理解を得るのにも時間がかかりました。しかし「安全なお米を子どもたちに」と待っていて下さる消費者の皆さんに勇気づけられ、この米作りも始めてから20年余りになりました。

時を同じくして私はJAの女性部に参加。見渡す限り年輩の方ばかり、当初は会合に参加してもちっとも楽しく

山下 由美

YUMI YAMASHITA

昭和40年5月14日生まれ。南宇和郡城辺町（現愛南町）出身。四国女子大学短期大学部卒業。昭和63年、結婚を機に就農。水稲と野菜を担当し、農業経営に取り組む。平成7年、JAえひめ南女性部加入。平成10年、JAえひめ南女性部フレッシュミズ初代会長。以後、JAえひめ女性組織協議会フレッシュミズ部会長、JA全国女性組織協議会理事（フレッシュミズ西日本代表）等を務め、若手リーダーとして活躍。平成15年に農産加工所「あぐり工房」を設立し、地元原料にこだわる味噌、焼き肉のたれを製造。平成19年、JICAのプロジェクトによりタイ国で食品加工の商品開発技術指導にあたる。平成20年、認定農業者。平成21～23年、JAえひめ南の米粉パン専門店「手作りパン工房みなみ」勤務、生み出したヒット商品多数。平成22年よりJAえひめ南津島支所女性部部长。「JA全国女性組織活動発表」最優秀賞、「明日の農山漁村を担う女性表彰」農林水産大臣賞、「女性のチャレンジ賞」男女共同参画担当大臣賞等、受賞歴多数。宇和島市津島町在住。家族はご主人と両親、娘2人。



▲トラクター姿が頼もしい。コンバイン、草刈り機、動力噴霧機など、農業機械を使いこなすのはお手のもの！

ありません。しかし不思議と辞めたいとは思いませんでした。これからの私のきつと力になる。そう変な確信があったからです。そして少しずつ同世代の仲間を探す事を始めました。

ちょうどその頃、45歳までの若妻グループを作るうという気運が高まり、町内から集まったのが20人余り、今で言うJA女性部フレッシュユミズ部会の立ち上げです。月に一度定期的に会合を持ち、どれも興味のある企画で何と

も言えない充実感を覚えていました。しかし全員が農家の女性というわけではなく、問題意識が違う事に気づいたとき、自然ともうひとつ小さなグループができていました。

子育て真っ最中だった私たちのいつもの話題は「食」。こんな田舎でもスーパーのお総菜コーナーが売り上げNo.1と聞き、「作る食事」から「買う食事」へと変化している事に危機感を感じていました。農に携わる私たちから発



▲小さな看板とでっかい夢からスタートした「あぐり工房」。一緒にはじめた仲間たちと(中央が山下さん)

信して行かなくてはとの思いを強く持ち、私を含め「食」と「農」に関心のある農家女性4人で農産加工施設「津島あぐり工房」を立ち上げました。当時平均年齢35歳とまだまだ若かった私たちには資本金もなく、沢山の人の惜しみない声援と労働力をいただいての工房立ち上げでした。これからの私たちの取り組みが試されていると気の引き締まる思いで、「あぐり工房」と書かれた小さな看板を入り口に掛けたのを今でもはっきり覚えています。「次世代に伝統の味を残したい」。そして「農家女性として『経済的自立』をしたい」。大きな目標を掲げてのスタートでした。

立ち上げから10年。家庭では最近作られなくなった麦味噌を中心に製造販売をしています。『食農教育』ということが今、盛んに言われています。しかし私たち親世代の意識が変わり、命を預かる台所が変わらなければいけないと考えています。手間暇かけて作る食事こそが子どもの心を豊かにすると思うのです。失われつつある大切なもの。子どもたちが成長し、ふるさとを離れても思い出す「家庭の味ふるさとの味」を残してやりたい。その役割を「食」を生み出す「農」に携わっている私たち農家女性が担っていると思うからこそ、ひとつひとつ目標を立て「夢」を持ちそれに向かって歩みを進めるのです。

●愛媛県果樹同志会 合同総会

牛川会長・井上会長ほか新体制スタート～TPP参加断固反対決議も採択

愛媛県果樹研究同志会と愛媛県女性果樹同志会は、5月11日松山市のJA愛媛別館で合同総会を開き、牛川慎吾果樹研究同志会長（南予果樹研究同志会・新任）、井上久美女性果樹同志会長（西宇和女性果樹同志会・新任）ほか平成24年度の役員体制と事業計画を決めました。

24年度事業計画では、温州みかんの隔年結果是正対策と高品質安定生産を最重点課題とし、果樹産地構造改革計画の実践と果樹経営支援対策事業の有効活用、基本管理の徹底などに取り組むことを確認。関係機関・組織と連携し、柑橘・落葉果樹の生産対策を進めるとともに、地産池消による消費者交流と消費地での対面販売など、売れる商品づくりやPR活動にも力を入れていきます。

また、総会では、「TPP参加に断固反対する特別決議」を採択。TPPが国産果実需要の圧迫、価格下落や減産など果樹農業の弱体化を招くことから、交渉参加阻止に向け、国民運動に取り組むことを決めました。

牛川新会長は、「新体制となり、気持ちも新たに会員の皆さんと協力しながら同志会活動を盛り上げていきたい」と呼びかけました。

24年度の主な役員は次のとおり（敬称略・カッコ内は所属組織）。

【果樹研究同志会】▽会長＝牛川慎吾（南予・新）
▽副会長＝松浦喜孝（西宇和・新）、石橋仁志（えひめ中央・新）
▽監事＝宮内光樹（えひめ中央・再）、菊池政弘（西宇和・新）、和田庄司（えひめ中央・新）

【女性果樹同志会】会長＝井上久美（西宇和・新）
▽副会長＝岡田孝子（南予・新）、戎居和子（えひめ中央・新）
▽監事＝菊池節子（西宇和・再）、青井和子（えひめ中央・新）、長木真由美（南予・新）



▲牛川会長（中央右）、井上会長（中央左）ら3役の皆さん

●JAグリーンえひめ れんげ祭り

れんげ畑を無料開放し交流を深める

JAグリーンえひめ「フレッシュ市」部会は、4月28日～30日まで、「れんげ祭り」を開き、駐車場に隣接するれんげ畑を無料開放するほか、各種イベントを行って消費者との交流を深めました。れんげが満開の畑では、子どもたちがシャボン玉を飛ばしたり、れんげでネックレスを編んだり、29日には移動ふれあい動物園で小動物とのふれあいやポニーの乗馬体験を楽しんでいました。

この催しは、5年前から毎年開催。期間中は、日替わりで卵のつかみどり、部会員によるうどん接待、えひめグリーンクラブの合唱などといった楽しい催しに加え、2,000円以上お買い上げ先着3,000人に、抽選で全国特産品が当たるスクラッチカードも配布しました。

れんげ畑は5月上旬まで無料開放し、今年も近隣の南吉井地区の2つの保育所から園児が訪ねて自然とのふれあいを楽しみました。

同部会では、今後も定期的に「フレッシュ市



祭り」など消費者との交流等を通じて、利用者の定着・拡大を図ることにしています。



なんでもBOX

●「いよっくら」運営協力会総会

“選ばれる店”めざし、商品と情報・交流を強化！

J A えひめアイパックス(株)ファーマーズマーケット「いよっくら」運営協力会（会員586人）は、5月8日、ウエルビア伊予で平成24年度の総会を開き、水口俊三会長（J A えひめ中央管内・再選）をはじめ新役員体制と24年度事業計画などを決めました。

「いよっくら」の23年度実績は、直売所間の競争や長引く不況等による消費の減退等により、1人当たりの客単価は伸びたものの、来店客数（前年比94%・42万9,099人）・売上高（前年比98%・7億3,859万円）ともオープン7年目で初めて前年割れとなりました。

こうした中、消費者に支持され選ばれる店にしていくため、24年度は、新品目・品種の作付け推進などにより、魅力ある商品づくりや豊富な品揃えを進めていきます。また、新たな取り組みとして、ホームページによる会員や商品・イベント等の情報発信、梅干し作り体験やすい

か祭りなど会員参加型の「ミニイベント」の計画的な実施など消費者との交流をより深めていく活動、オリジナル芋焼酎など新アイテムの投入、日常的な料理提案・試食販売、バックヤードの整備などを実施することにより、魅力的な店づくりを進めることにしています。



▲総会には会員229人が出席しました

●J Aグループ愛媛と愛媛FCとの相互協力協定調印

地産地消や食育・スポーツ文化の発展で協力！

J A 愛媛中央会・J A 全農えひめなどJ A グループ愛媛は、5月12日、サッカーJ2の愛媛FCと相互協力協定を締結しました。

これは、J Aグループと地域密着型で地域貢献活動に積極的に取り組んでいる愛媛FCが、お互いの特性を生かして、地産地消の推進や食育・スポーツ文化の発展、地域づくりや地域振興、人的資源・施設の相互利用などに連携・協力して取り組もうというもの。

具体的な取り組みとしては、松山市の県総合運動公園ニンジニアスタジアム内（愛媛FCのホームゲーム）で5月12日から11月4日までJ Aグループ愛媛がスポンサー看板を出すほか、今後はサッカー教室と食育活動を組み合わせたイベントの実施、ホームゲームの物産展にJ A特別ブースの設置等が検討されています。

5月12日、愛媛FC対ギラヴァンツ北九州戦の前にニンジニアスタジアムで行われた調印式には関係者が出席。J Aグループを代表してJ A愛媛中央会の林正昭会長が、「両者の協調・協力関係、絆をさらに深め、地域を盛り上げていきたい」とあいさつ。愛媛FCの亀井文雄社長は、「心強い味方が得られた。全国に愛媛の情報を発信していきたい。チーム力を上げて貢献したい」

と話していました。

なお、J A全農えひめグループでは、24年度も(株)えひめ飲料と(株)えひめライスがスポンサーとして愛媛FCを応援しています。



▲林会長（前列左）と亀井社長（前列右）



●農薬危害防止運動実施中

基本を守り、農産物・農家・環境の安全を徹底しよう！

毎年、6月から8月までの3か月間は、農薬の散布中における事故防止、農産物の安全確保、周辺環境の保全に向けて、関係機関が一体となって農薬危害防止運動に取り組んでいます。

農薬は、病害虫・雑草への効果、農産物への

薬害や残留などの安全性を確認した上で、農薬ごとに使い方が決められています。安全は基本ルールを守ることから。使用方法をきちんと守ることが農産物の安全性を確保することにつながります。

水田用除草剤や本田粒剤の 散布後7日間は落水やかけ流しをしない！

●環境保全のために●

水田で使用される農薬は、水系への安全性も確認されています。しかし、水田ではほぼ同時期に広範囲で同じような農薬が使用された場合、農薬使用後の短期間で落水やかけ流しをしてしまうと、水域の動植物に影響を与える可能性があります。周辺環境の保全のためにも、農薬が土壌などに落ち着くまでの7日間は、水田水を外に出さない水管理を徹底しましょう。

●農薬の十分な効果発揮のために●

散布後に、落水、かけ流し、畦畔からの漏水などで、農薬が水田から流れ出てしまつては効果が低下してしまいます。効果を十分に発揮させるには、散布した農薬を水田の外に出さない「水管理」をしっかり行う必要があります。

農薬散布後の止水期間は

7日間！

7日間は
落水
しない！

7日間は
かけ流しを
しない！

畦からの
漏水にも
注意する！

●第47回えひめ花まつり「花のコンクール」

花と緑とふれあいを深める

5月3日・4日の2日間、東温市の愛媛県農林水産研究所農業研究部花き研究指導室で、愛媛県・花のえひめづくり推進協議会などが主催して、第47回「えひめ花まつり」が開かれました。

この催しは、花に親しんでもらい花の消費拡大につなげようと、毎年開かれており、展示即売を中心に花と緑とふれあう様々な催しが行われ、大勢の人で賑わいました。会場では、JA全農えひめがオリジナル品種のデルフィニウムなど花きの展示を行いました。

5月3日には、「えひめ花まつり花のコンクール」表彰式が行われ、JA全農えひめを通じてデルフィニウムを出品した寺田嘉明さん（JA周桑）が愛媛県知事賞を受賞しました。

JA全農えひめ関係の主な受賞者は次の皆さん（敬称略。カッコ内はJA名）。

▽あいテレビ社長賞＝上田武志（愛媛たいき）

▽愛媛県農業会議会長賞＝堀本幸雄（同）▽全

農愛媛県本部県本部長賞＝玉井将貴（周桑）▽
愛媛中央花き商業協同組合理事長賞＝石川清幸（同）



▲愛媛県知事賞の寺田さんと出品したデルフィニウム

!! TAC® 私たちが TAC です

JA 全農えひめ
営農振興課
地域TAC

白石 雅之



がんばります！愛媛のTAC

TACって何？

「TAC」という名称は、全国公募で取り決められた担い手対策の愛称です。TACとは、「Team for Agricultural Coordination（農業コーディネート）」の頭文字ですが、実際は「とことん（T） 会って（A） コミュニケーション（C）」として浸透しています。昨年の11月には4回目のTACパワーアップ大会を開催し、250名余りが参加しました。

TAC活動の特徴

TAC活動の特徴は農家対応活動の見える化（TACシステムによる担当者、担い手の両軸で訪問内容の変遷を即時に確認できること）が挙げられます。また、TACと営農指導員との違いをJAや農家からよく質問されますが、TAC経験の長いJAの担当者の言葉借りれば、「現在の営農指導員は受け身が多くなりがち（農家に言われてから対応）だが、TACは農家に要望される前に訪問を実施し、課題を解決ないし持ち帰ることだよ」との発言からも明らかのように、TAC活動とは先んじて担い手の課題を収集し、解決していくことだと思います。さらには、JA担当者が異動するたびに挙げられていた担い手の「またゼロから（担当者との人間関係を

構築しなければならぬ）か…」といった閉塞感を改善し、堅実な信頼関係を異動があれど維持することにも繋がっています。

愛媛県でのTAC活動変遷

愛媛県では、TAC活動のスタートから5年が経過し、県下に着実に広がりつつあります。

今年度よりJAおちいまばりが本格的に活動を開始し、JA愛媛たいきが県内では初めて専任（他JAは基本指導員との兼任）でT

ACを配置しました。さらには実験的にJAえひめ南の三間町支所が導入を開始し、JAえひめ中央は導入検討をしています。つまり、県下8JAにTAC活動の輪が広がっています。

将来の愛媛県TAC

現在TAC活動を行っているJAでは、月例会の相互陪席や品目の相互圃場研修を行うことで、1JA管内に留まらず、相互に意見交換を行っています。その上、うま・西条の2JAの連携で始まった里芋「伊予美人」の連携は、周桑・おちいまばりに波及し、4JAにおける「伊予美人」連携の検討が始まっています。課題は着実に検討・解決しながら、得意な品目の情報を共有化し、その規模を増やすことで共販体制を拡充させていこうとJA全農えひめも一緒に模索しています。このような取組みをさらに拡大し、JA同士が県内でシェアを奪い合わない新たな農業協同のしくみの礎になるのはTACだと思います。将来を見据えた担い手対応を読者の皆さんも応援してください。



▲5 JA相互圃場研修風景



インフォメーション 小野青空市

- TEL/089-976-6608
- 営/月・水・金・土曜日7:00~13:00
- 住/松山市水尻町842-1
- URL/http://www.ja-matsuyama.or.jp/

小野青空市 ~JA松山市~

地元に基づいて15年、青空市は人々の生活の一部です！

畑と消費者の

仲をとりにもつ直売所

東温市と接する松山市東部の小野地区には緑豊かな田園風景が広がっています。

「小野青空市」は平成10年にオープン、平成20年に道沿いに駐車スペースを確保した広さ約150㎡の現建物へとリニューアルしました。出荷会員約500人、1日約130人が訪れる地元の人々に愛されている直売所です。

「小野青空市」で、より新鮮・安く・いいものを手に入れるには午前7時の開店時間前のスタンバイが必須です。それというのも生産者の名前入り農産物を熟知したお客様は「あの人のあの商品はおいしい」と、誰よりも早く、迷わずに買っていくからです。開店と同時にレジに長蛇の列ができ、約30分ですと一段落。その後、ゆったりと買い物を楽しまれる方、当日2回目の買い出しの方など、客足は途絶えることなく閉店を迎えます。



▲店舗を運営するスタッフのみなさん



▲朝7時過ぎ。レジはフル稼働

季節の旬の地元農産物が一番いい状態で並ぶ「小野直売所」。夏場は豆類、トマト、キュウリ、松山長ナス、ピーマン、オクラ、パプリカなど。農産物の鮮度に限りがある暑い夏はなおさらに新鮮野菜の回転が速いので、涼しい早朝に出かけてみませんか。



▲県道松山川内線、この旗を目印にお越しください



▲小野支所女性部によるオリジナルの「ほかし堆肥」は作物の成長が違います！

田中 泰三さん
(JA松山市 小野青空市 店長)

「直売所の激戦地区ですが、安心、安全、鮮度、値段ともどこにも負けない地域一番店を自負しています！ぜひ一度お越しください」



【ピンポイントmap】

品

妥協のないトマトづくり

こだわり生産者の一人、宮内正臣さんは酸味と甘みのバランスのとれた絶品トマトをつくっています。元理科の先生というだけあって、トマトハウスに糖度計を持参し、海洋深層水を試したり、有機肥料と水と温度と陽光と、さまざまな条件が重なりあっていいものができる、おいしいものづくりに余念がありません。「自分でおいしいと思

えるものしか出荷しない」がポリシーです。



▲宮内さんのトマトハウスにて。重量感のあるトマトは6月が旬



インフォメーション

堀江ふれあい市

- Tel/089-979-1115 (JA松山市 堀江支所)
- 営/月・水・金曜日8:30~13:00
- 住/松山市堀江町甲1388-1
- URL/http://www.ja-matsuyama.or.jp/

堀江ふれあい市 ~JA松山市~

農産物と惣菜の2本立てで、みんなの胃袋をわしづかみ!

安心と信頼のおつきあい

平成10年のオープン以前は味噌蔵だったというレトロな日本家屋内、広さ約100㎡で直売所を営む「堀江ふれあい市」は、地元の会員約180人が出荷しています。海に近い堀江地区は柑橘栽培が盛んで、ミカン、伊予柑、不知火、せとか、はるか、新品種の柑橘もお手頃価格で手に入ります。

4月に配った野菜苗が成長する6月は直売所がにぎわいを増す季節です。生産者が情熱を注いだ大ズレのない小玉スイカや、95歳の元気人による伊予柑を混ぜた土壌でとれるあま〜い大玉トマトなど、出荷するたびに即完売となる逸品も登場します。

併設の厨房では朝4時30分から女性グループ「クックふれあい」が惣菜づくり。生産者にできる限り還元しようと、残った農産物も活用し、客層や季節によって味付けをかえる気遣いと、アイデアとお母さんパワーもたっぷり詰まったおふくろの味が20種以上。できたとてが運ばれてくるたびに人が集まる人気ぶりです。



▲屋外は花々であふれている。花も主力商品の一つ



▲「クックふれあい」のニューフェイスたち

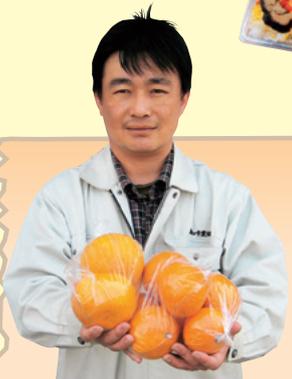
▶具材の存在感に圧倒されそうな巻き寿司、びっしり詰まったちらし寿司、これだけ入って400円弁当



▲厨房は早朝から忙しくも明るい声飛び交う



▲通路も広くゆったりとした店内



古見 典彦さん
(JA松山市 堀江支所 職員)

「JA松山市と合併以前の堀江農協の時代からずっと続いている直売所です。冬から春は多品種ミカンを、夏から秋にかけては野菜や果実、バラエティ豊かな惣菜は連日、品数豊富にお待ちしています」



【ピンポイントmap】



【広域map】



●4月号農の風景「宇和れんげまつり」を読んで。子ども頃、周りにあった田んぼは、春になると一面のピンク色に染まりました。あの頃、れんげの咲いていない田はなかったように記憶しています。春になると、当たり前前に咲いていたれんげ草ですが、実は種を播いて咲かせるといったことを知ったのは、成人してからだったと思います。今まさにれんげ満開です。今でもれんげ畑を見るたびに、思いっきり駆け回り、寝ころびたい衝動にかられます。

最近では野菜にしろ、果物にしろいろいろな品目が年間を通じて販売されており、いつが旬なのか、わからなくなってきました。今の旬はこれですよと毎回教えていただけると助かります。

(西条市・山内 美花さん)

●春になったらピンクや黄色の畑が本当にステキですね。最近では、畑や草畑の中で子どもたちが走り回る姿を見ることが少なくなりました。車の中から美しい景色を見て綺麗だと感じることも素敵だと思いますが、やはり子どもには、虫を発見したり、服に草花や虫をくっつけながら体で感じてほしいなと思います。心の中までピンク色になるといいですよ。

(四国中央市・曾根 ヒフミさん)

●4月号「平成24年度事業方針」を読んで。いよいよ平成24年度がスタートしましたが、国内外の厳しい経済環境にあって、JA全農えひめの事業計画達成に努力されることを願うところです。事業計画では、米穀事業が対前年比91%と低迷を予測するなど、日本人の主食である米の集荷が減少することを大変危惧しております。米価の値上がりと生産性の向上を目指し、農家経営の安定を期待するところです。

(西条市・石川 隆典さん)

●4月号エッセー「娘とお弁当ライフ」を読んで。子どもたちがまだ高校生だった頃、主人と自分のお弁当も含め、毎朝4個のお弁当を作っていた頃、作ることに一生懸命でした。もっと楽しんで作れば良かったなあと思っています。

高速道路が開通し、地元の道の駅「みま」が大

繁盛。ずっと続くといいと皆が願っています。

(宇和島市・善家 紀子さん)

●「娘とお弁当ライフ」を読んで、5〜6個あるお弁当箱を毎日変えて、そのお弁当箱に合った色や形にお弁当を作ったということはすごいと思いました。毎日同じお弁当箱に入れるだけでも大変で、なるべく少しずつもおかずを変えてみたりはするのですが、なかなか大変です。尾原さんはすごいと思いました。イベント等がある日程を早めに本誌で紹介してもらえたら行ってみたいと思いました。

(今治市・馬越 美保さん)

●「ふるさとESSAY」とても微笑ましい写真です。私の小さい頃はキャラ弁も冷凍食品もありなかつた時代でしたが、母が作ってくれたお弁当がとても楽しみでした。今、一児の母となりました。私もこのために心に残る弁当が作れるといいなー！

各地域でのイベント等紹介してください。ドライブに行く時が楽しみです。

(上島町・三森 教子さん)

●「娘とお弁当ライフ」を読み、たしかに私も娘が幼稚園の頃は、週に一度だったので、おにぎりをうさぎにしたり、キティちゃんにしたりと、凝ったお弁当を作っていました。今は子どもが高校生になり毎日必要になったので、手を抜くことが多くなったため、子どもの喜ぶ顔を思い出し、新たな気持ちで作っていきたいと思います。

いろいろな野菜を使った簡単でおいしい料理の仕方を教えてください。

(今治市・中水 ユカ子さん)

★編集部より：おべんとう作家・尾原聖名さんのエッセーには、多くの方から感想が寄せられました。尾原さんは、現在、「おべんとう教室」を精力的に行っており、開催場所、受講者を随時募集中ということです。JA女性部や地域で料理教室を開く際には、問い合わせしてほしいかがでしょうか。尾原さんのホームページまたは、次のメールアドレスは、mna@obento-sakka.comです。メールアドレスは、mna@obento-sakka.comです。

今月のクイズ

JA全農えひめが行っている「愛媛みかん大使」による消費宣伝活動は、いつから行っているのでしょうか？

「昭和〇〇年」

プレゼント
クイズに正解した方の中から抽選で、図書カード1,000円分を10名様にさしあげます。

応募方法

折り込みハガキにクイズの答えと本誌に対するご意見・感想などをお書き添えの上、ご郵送ください。



締切り

平成24年7月13日(当日消印有効)

発表

「あぐり〜ど」8月号で発表します。

当選者発表

4月号の答えは「40(周年)」でした。たくさんのお便りありがとうございました。厳正な抽選の結果、次の10の方に図書カード1,000円分をお送りします。

- 益崎 君枝さん(上島町) 吉岡 辰典さん(松山市)
- 小玉 忠重さん(西予市) 上田よしこさん(八幡浜市)
- 村上 瞳さん(今治市) 松浦 宏美さん(宇和島市)
- 武田 五月さん(西条市) 越智 伸恭さん(今治市)
- 米花佐智子さん(八幡浜市) 乾 律子さん(今治市)

編集後記

★5月21日は、朝から金環日食。めったにない話題で、767年ぶりという観測ですが、その翌日は、今年最高の暑さで、7月上旬は、天候が平年並みで、気温は40%高いです。

環日食は、愛媛県観測史上最高気温の記録。最も暑い日です。朝から金環日食。めったにない話題で、767年ぶりという観測ですが、その翌日は、今年最高の暑さで、7月上旬は、天候が平年並みで、気温は40%高いです。

(正直)

NOW NOW

COOKING

今月の素材
しょうが
新生姜



暑くなる時期にぴったりの
やさしい辛みとさわやかな香り

姜の蜂蜜煮 (右) 新生姜の甘酢漬、(左前) 新生姜の佃煮、(左後) 新生姜の蜂蜜煮



指導/学校法人愛媛学園 (愛媛調理製菓専門学校) 大西 望先生

新生姜の佃煮

〈材料〉 ※1人あたり約31kcal	
新生姜	100g
醤油	大さじ2
砂糖	大さじ2
① ミリン	大さじ2
水	大さじ4
ゴマ	大さじ1
ちりめんじゃこ	30g

〈作り方〉

- ① 新生姜は繊維に沿ってスライスをし、細すぎないように千切りにする。
- ② ①を合わせて沸かし、①を加えて焦がさないように煮る。
- ③ 器に盛り、ゴマとちりめんじゃこをふる。

※佃煮は卵焼きに入れたり、混ぜご飯にしても美味。

新生姜の蜂蜜煮

〈材料・4人分〉 ※1人あたり約67kcal	
新生姜	100g
蜂蜜	80g
レモン汁	大さじ1/2

〈作り方〉

- ① 新生姜は2mmくらいの薄切りにする。
- ② 鍋に新生姜、蜂蜜、レモン汁を入れて火にかけ、弱火～中火にして、アクをとりながら30分煮る。
- ③ 煮沸した瓶に詰めて保存する。

※食べ方は、トースト、アイスクリーム、ドリンク、ヨーグルト、ケーキに入れたり添える等。

新生姜の甘酢漬

〈材料・4人分〉 ※1人あたり約30kcal	
新生姜	200g
酢	1/2カップ
① 水	1/2カップ
砂糖	大さじ4
塩	大さじ1/2

〈作り方〉

- ① 新生姜はごく薄くスライスをする。
- ② ①を熱湯にくぐらせて、冷ます。
- ③ ①を合わせて(甘酢)煮立てて、冷ます。
- ④ ③に②を一昼夜漬ければ食べ頃となる。

※焼きものに添えたり、ちらし寿司に飾りつけたり、食のアクセントにも最適!

好評発売中 伯方塩業(株)とのコラボ商品
POM 塩と夏みかん 500mlペット



【果汁10%未満/希望小売価格140円(税抜)】

『伯方の塩と瀬戸内で育った夏みかんを使用』

- ①伯方の塩と瀬戸内産の夏みかんを使用した熱中対策にぴったりの飲料です。
- ②体液とほぼ等しい浸透圧に仕上げたアイソトニックタイプの飲料です。
- ③カロリーが気になる人もゴクゴク飲みやすい、カロリーオフ仕上げです。
- ④安心の原料で、お子様にも美味しく飲んでいただけます。

株式会社 えひめ飲料

〒791-8603 松山市安城寺町478番地 TEL:089-923-1500 FAX:089-924-0304
http://www.ehime-inryo.co.jp (通販専用)http://www.pom-j.com

はじめませんか？ 省エネ住宅でエコライフ。



JAオリジナル住宅 エコチョイス プレゼントキャンペーン



2012年4月1日～12月30日 ※2013年3月31日までに着工可能な方に限ります。

期間中、ご成約の方に、この5つの中から、ご希望の2つをプレゼント!

<p>1 エアコン (6畳相当)</p>  <p>TOSHIBA/RAS-221PDX 2010年度省エネ基準クリア</p>	<p>2 エコキュート 460ℓ</p>  <p>光熱費がお得! 地球環境にもやさしい給湯システム。</p>	<p>3 遮熱ガラス グレードアップ</p>  <p>冷暖房効率グ～ンとアップでエコロジー&経済的!</p>	<p>4 LEDシーリング ライト(2台)</p>  <p>省エネで明るいLED照明。消費電力を大幅カット。</p> <p>TOSHIBA/E-CORE</p>	<p>5 節水型 トイレ</p>  <p>ウォシュレット一体型便器 TOTO ネオレストDタイプ</p>
---	---	--	--	---



リフォームも「基本は安心」JAホームで。



バス
(ごんな方に)
この際、快適なシステムバスにしたい。タイルがひび割れて、水漏れが心配。



キッチン
(ごんな方に)
IH、食器洗い等、機能を充実させたい。流し廻りを清潔に保ちたい。



トイレ
(ごんな方に)
汲取りから水洗便所にしたい。座って楽な洋便器にしたい。

新築から増改築まで、なんでもお気軽にご相談(無料)下さい。

お気軽に近くのJAホーム窓口までお問い合わせ下さい。



基本は安心 JAホーム

お近くのJA窓口へ

JA全農えひめ 生産資材部 施設農住課 TEL(089)948-5473

JA/JA全農



環境に配慮した植物油インキを使用しています。

この冊子は再生紙を使用しています。